

# 研究機関名：東北大学

受付番号：	2009-435
研究課題名	自己免疫性膵炎の全国調査（二次調査）
研究期間	西暦 2010年 1月（倫理委員会承認後）～ 2011年 3月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（調査票）
上記材料の採取期間	西暦 2010年 1月～ 2011年 3月
意義、目的	<p>本研究は厚生労働省特定疾患対策研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究班の多施設共同研究であり、主任研究者（下瀬川 徹）が実施責任者として統括する（事務局：東北大学大学院医学系研究科消化器病態学）。</p> <p>画像検査所見で膵腫大や膵管狭細像を示し、組織学的に著明なリンパ球の浸潤を認め、ステロイド治療が奏効する自己免疫性膵炎が10年程前より注目されている。自己免疫性膵炎は膵癌あるいは胆管癌との鑑別が重要であり、平成14年に初めての診断基準が提唱された。この診断基準の提唱を受け、厚生労働省特定疾患対策研究事業の難治性膵疾患調査研究班では平成15年に初めての自己免疫性膵炎全国調査を行い、我が国における1年間（平成14年）の受療者数の推計を行った。その後、臨床像の解析が行われ、平成18年には診断基準が改訂されたが、新しい診断基準を用いた全国調査は行われていない。自己免疫性膵炎の有病率、発症率の推移を明らかにすることは、同症の原因、予防や治療についての研究を進めるうえで重要である。</p> <p>本学倫理委員会の承認を得て、前回の調査から5年の間隔を経て、平成19年度の1年間に全国の医療機関を受療した自己免疫性膵炎の患者数（継続療養者数、新規症例数）について一次調査を行った。今回、一次調査で自己免疫性膵炎症例あり、と回答のあった施設を対象に二次調査を行う。</p>
方法	<p>自己免疫性膵炎の全国調査（一次調査）で症例ありと回答のあった279施設に事務局（東北大学大学院医学系研究科消化器病態学）より調査票を送付し記入を依頼する。各施設では個人情報管理者の管理のもと連結可能匿名化を行ない、その後の照会、調査票の記入は匿名化された形で行なうものとする。各施設の担当医は調査票に記入し事務局に返送する。対応表は各施設で厳重に管理する。事務局では他施設の症例に関する個人情報は扱わない。調査票の内容を統計学的に解析し、自己免疫性膵炎の臨床像を明らかにする。なお、本調査への参加を希望しない場合は、通院施設に申し出ることにより研究対象者となることを拒否することが可能である。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	<p>厚生労働省特定疾患対策研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究班 東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野 研究代表者 下瀬川徹（事務局） 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 電話：022-717-7171</p>